



社会イノベーション事業を加速するための デジタルトランスフォーメーション研修体系 —デジタル人財に必要なものとは？—



今、あらゆる産業において、AI×データ、IoT の活用などにより、新たなビジネスやサービスが立ち上がり、事業構造の変革が起こっています。こうした変革は、デジタルトランスフォーメーション(DX)と呼ばれ、どの企業においても重点経営課題として議論されています。DX は過去に起きた技術トレンドとは異なり、ICT を活用した新たな社会である Society5.0 を実現するための手段として注目されています。経団連が発表した資料「Society5.0 概要」には、「デジタル革新と多様な人々の想像・創造力の融合によって、社会の課題を解決し、価値を創造する社会」と定義されています。

※経団連「Society5.0 概要」http://www.keidanren.or.jp/policy/2018/095_gaiyo.pdf



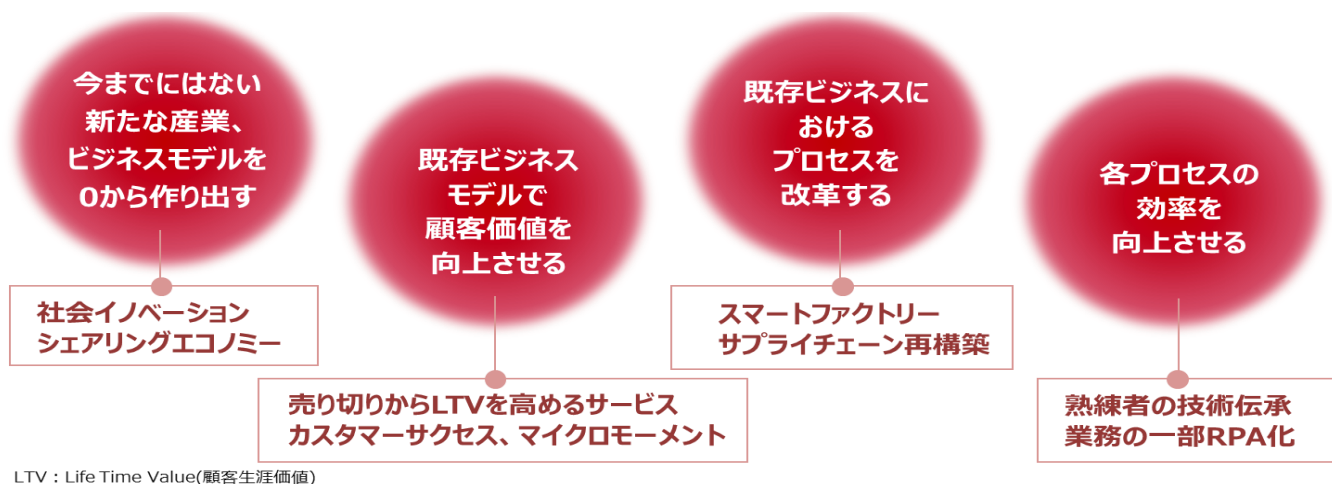
多くの企業において DX は、実証実験段階から実行段階へ移行しつつあります。DX には、「現場視点でビジネスを考える」、「利用者にとってのデータによる価値を考える」、「価値を生み出すデータを集約する」の三つの視点が重要です。

DX を推進する現場やソリューションを提供する組織など、DX への関わり方によって、重視するスキルが異なります。

当社は、日立グループ内の多くの有識者と連携し、各社がこれまで蓄えてきた知見と、連携を通じて得られた現場の取り組み、ノウハウを融合して、DX 研修体系として継続的に整備し提供しています。

図：日立アカデミーが提供する研修の構造

DX を推進する会社・組織が取り扱う課題はさまざまで、時間・空間を含めた異なるレイヤーで分解・構成できます。また、デジタルトランスフォーメーションの時代に合った個人・組織に変容させることも同時に必要となります。



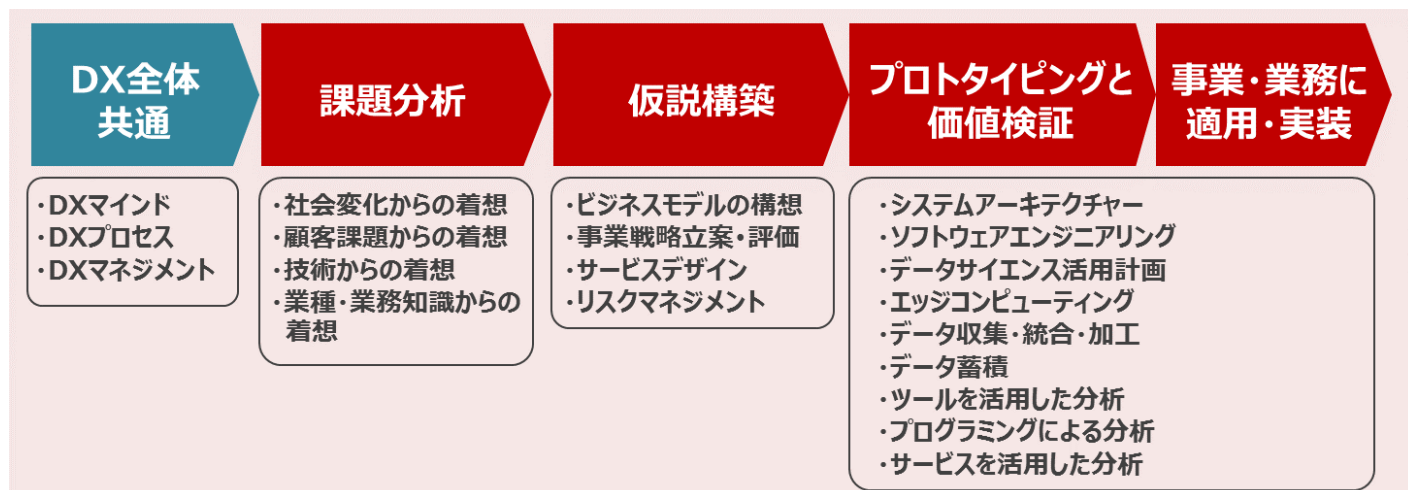
図：DX を推進する会社・組織が取り扱う課題の例

いずれの課題に取り組む場合でも、取り扱う課題をデータで解いて、エコシステムを作りたいと想像することが始まります。その上で、業務、サービスなど、ビジネス(事業)として、どういう形になるか周囲の共感を得るような絵(ビジュアル)を描き、データの利活用やデータ分析で解くビジネス課題として定義していきます。ある程度企画がまとまると、データの利活用やデータ分析に必要なデジタルデータを取得する、実際に分析、モデル化し、業務プロセスを変え、業務にモデルを組み込んでいくことで、DX は推進されます。



図：DX の推進イメージ

当社は、DXに必要なプロセス・タスクを整理・分類・体系化しています。また、こうしたDXの考え方、プロセスに沿って、必要な人材を育成・拡充をめざしています。



図：DXのプロセスと各プロセスに必要な要素

DX研修はLumada協創プロセス(※1)を軸に「課題分析」「仮説構築」「プロトタイピングと価値検証」をスコープにし、さらに「ビジネスデザイン」、「データサイエンス」、「テクノロジー」の観点でも整理した階層構造となっています。また、全体共通として、DXに必要なマインドセット、プロセス理解、マネジメントの領域を整理しています。

表：DX研修体系

NO.	第二階層	第三階層	ビジネスデザイン	データサイエンス	テクノロジー
1	DX全体共通(プロセス・マインド)	DXマインド		DX基礎研修	
		DXプロセス			
		DXマネジメント			
2	課題分析(何をなすべきかを着想する)	社会変化からの着想	データによる課題解決ワークショップ		
		顧客課題からの着想	データ活用のパターンとビジネス着想		
		技術からの着想			
		業種・業務知識からの着想			
3	仮説構築 (顧客と日立それぞれのビジネスモデルをデザインする)	ビジネスモデルの構想			
		事業戦略立案・評価			
		サービスデザイン			
		リスクマネジメント			
4	プロトタイピングと価値検証 (共通)	システムアーキテクチャ		AI基礎研修	
		ソフトウェアエンジニアリング			
		データサイエンス活用計画	定量分析のスキル		
5	プロトタイピングと価値検証 (データ環境構築)	エッジコンピューティング			
		データ収集・統合・加工			
		データ蓄積			
6	プロトタイピングと価値検証 (分析モデル構築)	ツールを活用した分析		EXCELで学ぶ問題解決のためのデータ分析研修	
		プログラミングによる分析		機械学習 ケーススタディで学ぶ実践編	
		サービスを活用した分析			

重要要素

参考要素

今回ご提供のコースはこちらです



DX 実現に必要なスキルは、解くべき課題を解ける状態にまで落とし込んで定義していくビジネスデザイン、データの力を解き放ち、課題解決に結びつけるデータサイエンス、課題解決のために必要な環境、機器などを設計・実装していくためのデジタルテクノロジーによって構成されています。この 3 要素はプロセスにおいて、必要の度合いは異なります。プロセス遂行上、コアとなる重要要素と参考となる要素に色分け、イメージしやすくしています。

図：DX 実現に必要な共通スキル

(※1)Lumada 協創プロセスについては以下のサイトをご参照ください。

<http://www.hitachi.co.jp/products/it/lumada/about/index.html>

＜日立 IT ユーザ会 ご提供コース＞

■ 2020 年度開催

「データ利活用のパターンとビジネス着想」【技術からの着想(ビジネス)】

■ 2021 年度開催

「DX/AI 基礎研修」

【DX 全体共通(プロセス・マインド)】/【プロトタイピングと価値検証(共通) (データサイエンス/テクノロジー)】

「データ利活用のパターンとビジネス着想(グループ演習有)」

【顧客課題からの着想】/【技術からの着想(ビジネス)】/【業種・業務知識からの着想】

(参考) お薦め後続コースのご紹介

※以下 URL よりコース概要をご覧ください

「定量分析のスキル」【データサイエンス活用計画(ビジネス、データサイエンス)】

[\[HSV198\]定量分析のスキル【バーチャル・クラスルーム】：日立アカデミー \(hitachi-ac.co.jp\)](https://hitachi-ac.co.jp/HSV198)

「データ分析手法の理論と適用」【データサイエンス活用計画(ビジネス、データサイエンス)】

[\[HSV109\]データ分析手法の理論と適用-ビジネスにおける統計的手法活用の広がり-【バーチャル・クラスルーム】：日立アカデミー \(hitachi-ac.co.jp\)](https://hitachi-ac.co.jp/HSV109)

「機械学習 ケーススタディで学ぶ実践編-製造物の種類判別と生産設備の故障予兆-」

【ツールを活用した分析(データサイエンス)】

[\[DBV120\]機械学習 ケーススタディで学ぶ実践編-製造物の種類判別と生産設備の故障予兆-【バーチャル・クラスルーム】：日立アカデミー \(hitachi-ac.co.jp\)](https://hitachi-ac.co.jp/DBV120)

※以下コースは、オーダ研修のみのご提供のため、ご希望の場合は個別相談となります。

「データによる課題解決ワークショップ」【社会変化からの着想、顧客課題からの着想(ビジネス)】

「EXCEL で学ぶ問題解決のためのデータ分析研修」【ツールを活用した分析(データサイエンス)】